

小学校第5学年2組 道徳科 学習構想案

日時 令和6年6月28日（金）第5校時
 場所 5年2組教室
 指導者 教諭 福田 桂子

1 学習構想

主題名	善意に応える（内容項目 B(8)感謝）	
ねらいと教材	(1)ねらい 「自分を支えてくださる人達に応えていく」とはどういうことかについて考え、話し合う活動を通して、善意に応えていこうとする態度を養う。 (2)教材名 おじいさんのあたたかな目 出典:「みんなの道徳⑤(Gakken)」	
評価の視点	評価の視点 1	評価の視点 2
	主人公に自分を投影し考え、話し合うことを通して、支えてくれる人に対してどのように思っているかについて考えている。	自分を支えてくれる人との関わり方について、自分の生活と関わらせながら考えている。
目指す児童の姿		
温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応えて、進んで実践しようとする児童		
主題に迫る学習課題（本時）	本主題で働かせる見方・考え方	
私たちが支えてくれている人との関わりについて考えよう。	自分を支えてくれる人との関わりについて、多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導，各教科等や体験活動等との関連的指導		
各教科等	道徳科	体験活動等
【国語】地域の魅力を伝えよう ○ 地域の魅力を伝えるタウン誌を作成する中で、自分たちの生活を支えてくださる人々のよさに気付いている。 【社会】米作り ○ 津奈木町の農家の方からお話を聞き、米作りお酒造りの工夫や努力を学び、自分の食生活を支えてくださる方々へ感謝の気持ちをもつ。	「おじいさんのあたたかな目」 （本時） B(8)感謝 主題名 善意に応える	【交通教室】 ○ 警察の方や地域の見守り隊の方からの話を聞くことで、自分たちへの思いや願いを知り、安全に過ごしていこうという心情をもつ。 【児童会】縦割班活動 ○ 縦割班活動において、最上級生の6年生がリーダーシップを発揮する姿を見て、自分にできることを見つけ行動する。 【児童会】委員会活動 ○ 自分の委員会に責任をもち、学校全体をよりよくするために活動する。

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所(ねらいや指導内容についての教師の捉え方)
本主題は、第5学年第6学年の内容項目 B(8)「感謝」を基にしたものである。 この内容項目は、温かなつながりの中に自分の生活があることを感謝し、人々の善意に応えて自分は何をすべきなのか自覚し、進んで実践できる児童を育てようとするものである。人々の善意に気づき、自分にできることを実践しようとする心情を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

本主題における系統

小学校第4学年

内容項目 B(7)(感謝)

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。

教材名「谷川岳に生きたドクター」
主題名「心からのありがとう」

小学校第5学年

内容項目 B(8)(感謝)

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

教材名「おじいさんのあたたかな目」
主題名「善意に応える」

小学校第6学年

内容項目 B(8)(感謝)

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

教材名「こだわりのイナパウワー」
主題名「感謝のまい」

児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）

■主題に関する意識の状況

質問事項

(1)あなたは、どんな人達に支えられていますか？

※省略

(2)その人達は、あなたにどんなことをしてくれていますか。

※省略

(3)どんな思いでしてくれていると思いますか。

※省略

■考察

※省略

教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）

本教材は、地域のおじいさんの言葉を大きなお世話と受け取っていた主人公「ぼく」が、「自分一人が大きくなったと思っと思ったんがちがうか。」というお父さんの言葉をきっかけに、地域の方の親切に支えられて、これまで十二年間過ごすことが出来たと初めて実感するという内容である。

主人公の変容やお父さんの言葉を通して、地域の方の支えがあってこれまで大きくなったことや、その善意に応えていくことの大切さに気付くことのできる教材である。

本教材を活用した授業においては、登場人物の姿に自分を投影する中心発問を行うことによって、児童のこれまでの経験や本音を引き出しながら、善意に応えることについて考える。

3 指導に当たっての留意点

【①体験活動とつなげた導入・終末】

○授業の導入では、どんな人に支えられているか等の意識調査の結果等を提示することで、主題に関わる問題意識を持てるようにしたい。

○授業の終末では、登下校を見守ってくださっている地域の方のインタビュー動画を流し、地域の方の行為や根底にある気持ちを知り、感謝の気持ちを伝えたいという気持ちを高める。

【②「考え、議論する道徳」となる場(ハートつなぎタイム)の設定】

○思考ツール(心情ものさし)を活用し、登場人物に自分を投影して考えたことを可視化し、友達と交流する場面を設定することで、自分を支えてくれている人への思いを考えられるようにする。

4 人権教育を通じて育てたい資質・能力について

○自分の考えを発表する場(ペア・全体交流)を設定し、お互いの考えを認め、議論し合えるようにする。

本時の学習

(1) ねらい「自分を支えてくださる人達に伝えていく」とはどういうことかについて考え、話し合う活動を通して、善意に伝えていこうとする態度を養う。

(2) 展開

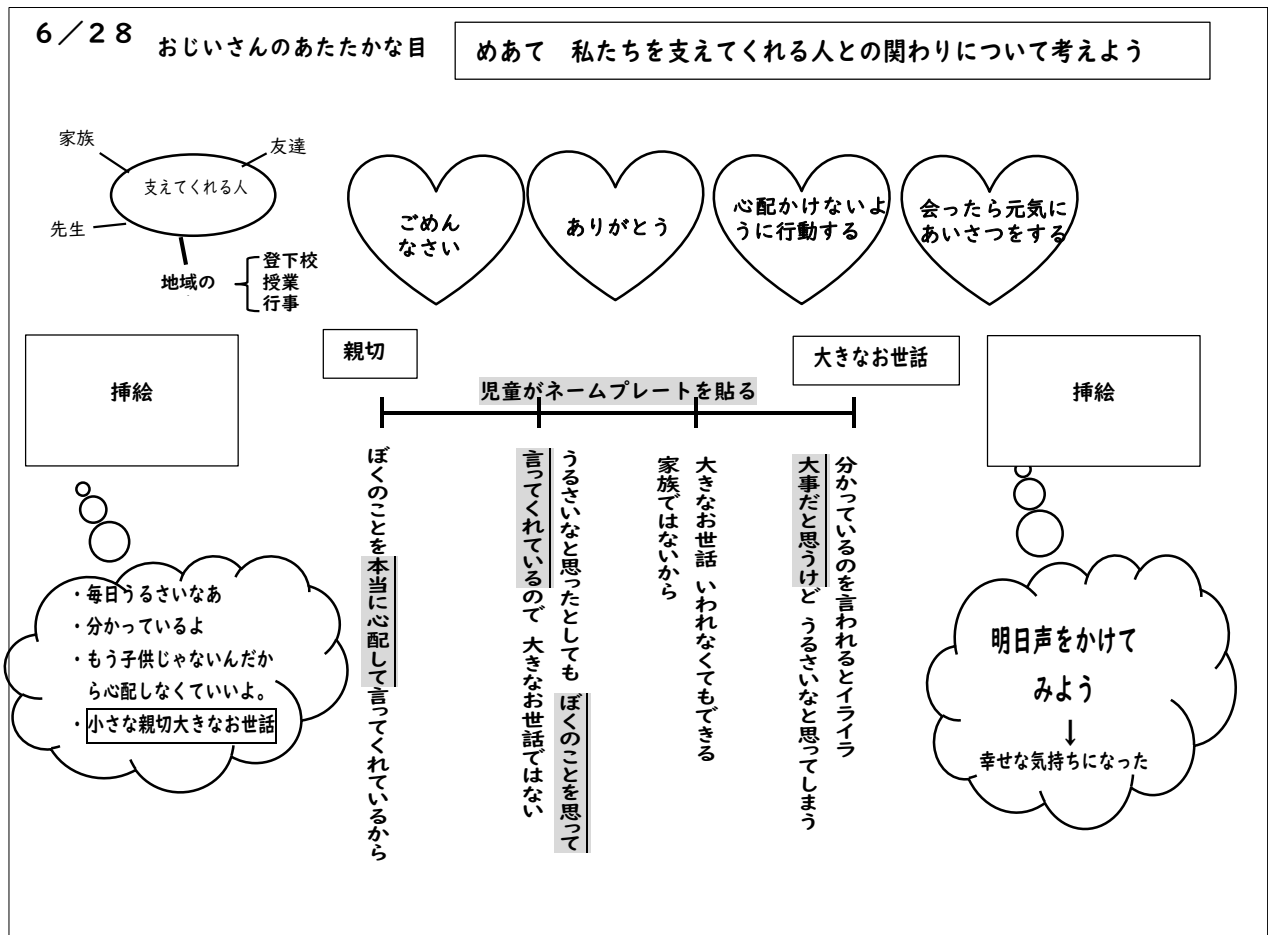
過程	時間	学習活動 (◎中心発問◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 本時の学習課題を知る。 ○自分がどんな人に支えられて生きているかについて考える。	・事前にとったアンケート結果を提示する。 (だれに支えられて生きているか・どんなことをしてくれているか) ・支えてくれている人たちにどのような人がいるかを意識させ、めあてへとつなげる。
		【めあて】 私たちを支えてくれる人との関わりについて考えよう。	
展開	25分	2 教材を読み、登場人物の気持ちや考えについて話し合う。 (1)前半場面のぼくの気持ちを考える。 ○おじいさんの言葉を無視した時のぼくは、どんな気持ちだったでしょう。 ◇毎日うるさいなあ。 ◇もう子供じゃないんだから、心配しなくていいよ。 ◇小さな親切大きなお世話と思った。 (2)ぼくと似たような体験をしたことがないか話し合う。 ○ぼくのように「小さな親切大きなお世話」と感じたことがありますか。 ◇大人に言われると、いちいち面倒くさいなあって思うことがある。 ◇分かっていることを言われるから、いらいらしてしまう。 ◎おじいさんの声かけは、親切なのでしょううか、大きなお世話なのでしょううか。 ◇大きなお世話だと思う。 ◇必要だと思うけれど、いちいちうるさいなど感じてしまうことがある。 ◇ぼくのことを心配してくれているので、親切であっても大きなお世話ではないと思う。 ○支えてくれる人にどんな気持ち(思い)で接したいですか。 ◇ありがとうを伝える。 ◇自分の間違いを謝る。 ◇心配かけないようにする。 ◇会ったら元気にあいさつする。	・教材を聞く際に、ぼくとおじいさんに着目して読むようにさせ、本時で考えたいことに迫れるようにする。 ・心情メーターでぼくの気持ちに共感できるかを可視化する。 ・「小さな親切大きなお世話」に込められたぼくの気持ちを自分と重ねて考えさせ、中心発問へとつなげる。 ・ぼくに自分を投影し、自分を支えてくれている人に対してどのように思っているかを考えさせる。 ・心情メーターを使い自分の考えを可視化することで、互いの考えを伝えやすくする。
終末	15分	3 学習を振り返る。 ○今日の振り返りを書きましょう。 ◇登校の時に元気なあいさつしたい。 ◇いつもありがとうございますと伝えたい。	・残りの部分を範読し、最後の場面のぼくの思いを考え、自分を支えてくれる人々に対する感謝の気持ちについて焦点を当てていく。 ・振り返る視点(身近で支えてくれている人・今までは・今日学んで・これからは)を提示する。 ・友達の発表を自分の考えと比べながら聞きこれから大切にしていきたい心や今後の在り方について見つめさせる。 ・朝の登校の見守りをされている地域の方のインタビューを視聴し、自分が支えられていることを再確認できるようにする。



【評価の視点1】 主人公に自分を投影し考え、話し合うことを通して、支えてくれる人に対してどのように思っているかについて考えている。
(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】自分を支えてくれる人との関わり方について、自分の生活と関わらせながら考えている。
 (方法：発言・ワークシート)

【板書計画】



【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等
 導入時、事前にとったアンケート結果の提示
 終末時、登校の見守りをしてくださっている方のインタビュー動画を流す。
 【電子黒板】